

## 主の洗礼

「民衆が皆洗礼を受け、イエスも洗礼を受けて祈っておられると、天が開け、<sup>22</sup>聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降って来た。すると、『あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者』という声が、天から聞こえた。 ルカ3・21-22

皆さん、今日は主の洗礼の祝日です。クリスマスを中心にした待降節、降誕節をしめくくるのは、今日の主の洗礼の祝日です。主の洗礼を祝った後、典礼は年間に入ります。

今日の福音書に「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。」と書いてありました。この短い福音書の一節は、私たちが神様からみればどのような存在であるかを語っています。すなわち私たちは神に愛された子どもであることを示しているのです。わたしたちも皆、イエスと同じように「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声を天からかけていただいているのです。イエスは徹底して人々と共に生き、人々の重荷や患いを共に担いました。イエスはわたしたちを本当にご自分の兄弟として受け入れてくださいます。イエスは私たちが神の愛する子として、神のもとに導いてくださるのです。今日は神の愛する子とされていることの大きな恵みを深く味わいたいと思います。

さて「**洗礼**」は、神の招きに対する私たちの応答です。それは、結婚のときに**愛を約束する宣言**に似ています。キリストに倣って、私たちの生涯の生き方を約束する宣言です。

ところで、人の生き方を方向付けているのは、「その人の価値観」ですね。キリストに倣うためには、自分の価値観を見直さなければなりません。すべての人は「価値」を求めて生きていますが、それは愛されるためでしょう。愛(=大切にされること)はいのちが切に求めているものです。愛されなければ生きることができないという「いのちの原理」が人にはあるからです。

命を生かすために、私たちは何に「価値」をみ出しているのかと問われるのが「洗礼」なのです。

今日の福音で「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と天から声がありました。このことはイエスが求める唯一の価値が「神お一人」であることを証しています。私たちがイエスに完全に倣うことができない最大の原因は、私たちの本性にあるようです。すなわち、自分のことしか考えない自己保身、自己中心性、つまりエゴイズム（自我）という本性があるからです。命を生かすための価値を神に求めるためには、私たちがキリストに倣って自我に死ななければならないのです。

私たちが洗礼の恵みを生きることは、大げさなことをすることではありません。私たちが自分のこころの闇、罪、貧しさ、無力さを抱えながら、それにもかかわらず神の子とされていることを信じることです。わたしの存在を喜んでくださる方がいることです。そして、イエスさまの兄弟姉妹とされていることを意識して、日々、感謝のうちに生きることなのです。決して難しいことをすることではないのです。わたしたちが、毎日しなければならない小さいことをしつづけ、神の子としてコツコツと地道に生きることなのです。それが洗礼の秘跡、洗礼の恵みを生きることに他なりません。洗礼式自体が秘跡ではないのです。洗礼の恵みを生きることこそが、洗礼の秘跡です。洗礼を受けることで、自動的に何かをもたらされるわけではありません。信じて生きることなしには、洗礼は単なる儀式になってしまいます。

今日も洗礼の恵みを味わい、神様に感謝しましょう。洗礼を受けた私たちは、神の子とされ、聖霊に励まされながらイエスさまの後に従って行くように促されています。それは、自分自身にこだわりを持ち続けることから解放されて、自らを捧げて生きるようにとの神さまからの招きです。その招きに応えることができるように祈り求めながら、日々の信仰生活を送って参りたいと思います。

